

集団的自衛権に関しパネル討論する自民党の村上誠一郎氏(左)＝27日、東京・有楽町



解釈改憲は「禁じ手」

自民党 村上誠一郎氏
パネル討論で批判

自民党の村上誠一郎氏は27日、東京の有楽町で開かれた「自民党の村上誠一郎氏(愛媛2区)衆院議員」の記者会見で、安全保障などに関するパネル討論に出席した。安倍晋三首相が目指す集団的自衛権の行使容認に「閣議決定を受け自衛隊法などを改正するのは、下位の法律によって(最高法規の)憲法の解釈を変える禁じ手だ」と国内外の報道陣に訴えた。

政策研究大学院大の道下徳成教授と討論した村上氏は「わが国への直接攻撃がなければ武力行使はできない」と集団的自衛権の行使容認に反対し「必要なら憲法改正を主張し、国民の判断に委ねるしかない」と述べた。道下教授は「地域の

パワーバランスを維持するため日本は日米同盟の強化や東南アジア諸国などの協力関係を築こうとしている」とし、「行使容認が必要だと説明した。質疑で与党協議について村上氏は「集団的自衛権は、攻撃を受けた同盟国のために戦争をするというのがメー

ンテーマ。協議しているのはレアケースで、一つでも公明党が認めれば突破口にしようとするやり方だ」と批判した。(松本尚也)